

人が人を育てる、
北海道教育大学。



平成29年9月発行

編集・発行／北海道教育大学財務部施設課
〒002-8501 北海道札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号
TEL (011) 778-0247 FAX (011) 778-0633
URL <http://www.hokkyodai.ac.jp>

June, 2017

Edited and published by the finance Division
NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION
HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION
1-3, Ainosato 5-3, Kita-ku, Sapporo 002-8501



国立大学法人

北海道教育大学環境報告書2016

Hokkaido University of Education Environmental Report 2016

Contents

学長メッセージ	1
大学概要	2
特集	
h ue学生プロジェクト16 -環境部門-	4 6
環境方針と環境保全推進実施体制	8
環境保全計画	9
環境保全の取り組み	10
環境汚染物質の管理と排出等について	14
環境教育活動の取り組み	16
その他の環境保全活動の取り組み	30
社会的取り組み	32

【報告の対象範囲】

対象範囲：北海道教育大学の全ての組織を報告対象としています。

期間：2016年4月1日～2017年3月31日※
※一部に2016年3月以前、または2017年4月以降の情報も含めています。

学長メッセージ

北海道教育大学は、教員養成、人間と地域に関する文理融合型の学際的研究、芸術とスポーツによる人間性開発をあわせもつ、地域に根ざした大学を目指しています。私たちは、これらの教育研究を通じて、教師をはじめ21世紀の地域社会をリードする優れた人材を養成し、北海道全域にわたり地域と国際社会に貢献する大学として実をあげたいと願っています。

平成25年には「教員養成機能における北海道の拠点」「地域や文化の価値に関する現代的・学際的探求を進めるため、現代社会の多様なニーズに応える地域人材の養成を行う」というミッションを掲げ、ミッションを達成するために様々な取り組みを進めております。今後も人間と地域の成長・発展を促す大学づくりを進め、地域になくてはならない大学をめざしていきます。

「環境報告書」は平成17年に施行された「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（環境配慮促進法）」に基づき2005年度（平成17年度）から、毎年公表してきました。

平成21年10月には、環境保全推進に係る体制の改革を実施し、道内5キャンパスの各キャンパス長の下に教職員、学生が一体となった「キャンパス環境保全推進会議」を設置し、本学が掲げる環境保全推進計画を確実に実施するために、大学全体で取り組む体制としています。

その取り組みとして、学内ホームページにおいて、各キャンパスの電力使用量を公開し使用量を確認できるようにしたり、学生の作成による節電啓発ポスターの掲示や、不要な電気の消灯、電灯の間引きなど教職員が一体となって節電に取り組んでおります。

また、平成21年3月に策定した「地球温暖化対策に関する実施計画」について、平成25年7月に自己評価を行いました。



北海道教育大学長
蛇穴 治夫

その評価結果をふまえ、平成26年3月に「地球温暖化対策に関する実施計画2014」を策定し、温室効果ガス削減を目標として2014年度より2020年度にかけて実施しております。

各キャンパスには、環境保全事業についての必要経費（環境保全推進経費）の措置をするとともに、学生の自主的かつ創造的な学生企画のプロジェクトを公募し、平成28年度は「h ue学生プロジェクト環境部門」として5件、平成29年度は3件を採択し、環境事業に積極的に取り組んでいます。

2017年（平成29年）9月

北海道教育大学の教育理念

1 先進の人間教育

教育の活動は、人が育ち成長することへの飽くことなき関心と情熱から始まる。北海道教育大学の教育は、現代の人間と子どもについての先進的で深い知見と体験を根底に置き、人を育てることの喜びと尊さの自覚を不断に醸成する。

2 行動する教養

21世紀の社会と教育は、文理融合の複合的な教養、他者と積極的に関わり共存する柔軟な人間性を求めている。そのためには、芸術やスポーツを含めた多様な実践と体験に基づく、豊かで、社会に広がりを持つ人間性の育成が不可欠である。北海道教育大学の教育は、創造し行動する教養を旗印として現代の教養教育を展開する。

3 高い志の涵養

教育には、人のために生きる高い志が不可欠である。現代の教師には、子どもたちが抱える困難をわがこととして受け止める感受性が求められる。21世紀の地域と国際社会の諸課題への挑戦にも、同様の志が求められる。北海道教育大学の教育は、その全体を通して高い志の涵養をめざす。

本学位置図



札幌

札幌校（教育学部，大学院教育学研究科），監査室，事務局，附属図書館，国際交流・協力センター，学校・地域教育研究支援センター，大学教育開発センター，キャリアセンター，保健管理センター，教員養成開発連携センター，附属札幌小学校，附属札幌中学校，札幌駅前サテライト，アーツ&スポーツ文化複合施設，学生寄宿舎（紫藻寮，北香寮）

旭川

旭川校（教育学部，大学院教育学研究科），附属旭川幼稚園，附属旭川小学校，附属旭川中学校，大雪山自然教育研究施設，学生寄宿舎（築ヶ丘寮，春光寮）

釧路

釧路校（教育学部，大学院教育学研究科），附属釧路小学校，附属釧路中学校，学生寄宿舎（鶴ヶ岱寮）

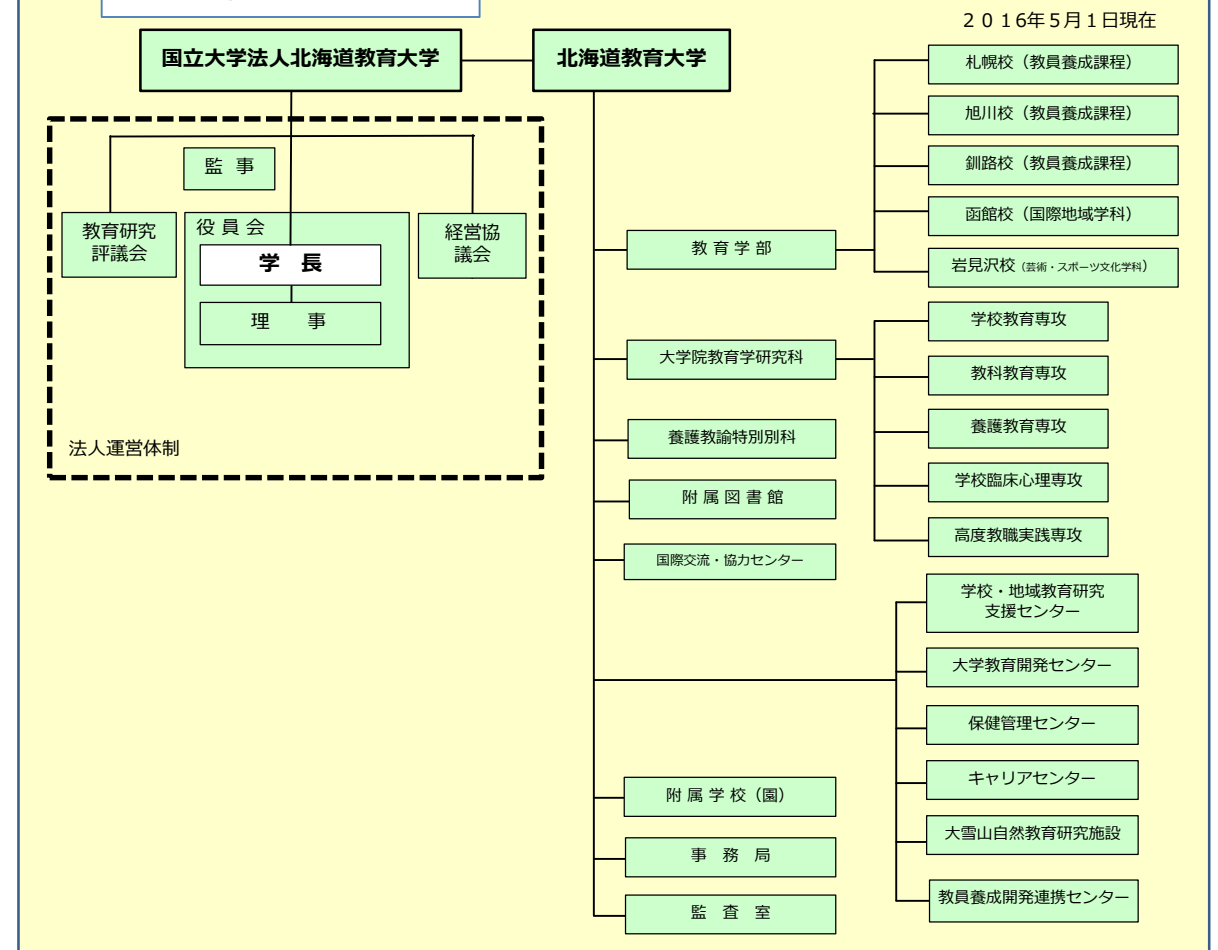
函館

函館校（教育学部，大学院教育学研究科，養護教諭特別別科），附属函館幼稚園，附属函館小学校，附属函館中学校，附属特別支援学校，学生寄宿舎（桐花寮，翠蔭寮）

岩見沢

岩見沢校（教育学部，大学院教育学研究科），学生寄宿舎（希望寮，清明寮）

組織図



職員・学生数

2017年5月1日現在

区 分		人 数 (人)	
学 生	教育学部	5,033	(3)
	大学院教育学研究科（修士課程）	236	(14)
	大学院教育学研究科（専門職学位課程）	76	
	養護教諭特別別科	39	
	計	5,384	(17)
児童・生徒・園児	附属幼稚園	130	
	附属小学校	1,641	
	附属中学校	1,287	
	附属特別支援学校	59	
計	3,117		
教 職 員	大学	400	
	附属学校	190	
	職員数	232	
	計	822	
合 計		9,323	(17)

※（ ）内の数字は外国人留学生を内数で示す。

学生の自主的かつ創造的な活動を支援することを目的とした「hue学生プロジェクト'16」を募集し、環境部門として5件のプロジェクトを実施しました。大学からプロジェクト1件当たり年間30万円を上限とした支援を行い、学生による環境保全活動を行いました。

■H.U.E.Aフローラ保全プロジェクト実施報告(実施時期：平成28年5月～平成29年3月)

－ Flora(植物相)の保全を目指し、多くの方に認知してもらい、後生に遺し伝える－

旭川校 理科教育専攻 3年 五安城 泰宏

旭川校構内には、開拓以前の旭川自然植生が遺存している。しかしながら、外来種による排除や草刈りなどによって衰退・消失が危惧される。そこで、構内の自然植生の調査及び保全、調査研究普及啓発を行った。

○北海道教育大学旭川校の構内植生の調査



○自然観察会の実施(平成28年9月～平成29年2月)

プロジェクトのSNSページを設置し、開花の情報や生育状況をリアルタイムに広く発信を行い、学習活動としての自然観察会を実施した。



○北海道教育大学旭川校の構内植生の調査の結果

56科106属134種の植生を確認できた。その内の、8科11属12種(1は種名不明)が遺存種と考えられる。また、その結果などをもとに、植物種リストとしてまとめ、芸術教育専攻の学生の協力を得て、リーフレットを作成した。このリーフレットを媒介として、構内の自然植生、保全の意義についての普及を行った。

○観察会の実施結果(アンケート回収)

自然観察会は9回実施した、参加者にはアンケートを実施し、その内容からは、自然観察会に参加したことで構内の自然や遺存種の重要性を認識したという成果を得られた。内訳としては、保全という取り組みについては必要と考える人が17人、不要と考える人が0人、その他の回答が3人であった。(延べ参加人数 29名)

今後は、遺存種の保全および環境衛生の整備の観点から、遺存種の生育を阻害しない程度に、保護区でも外来種などの刈り取りを実施することを検討する必要があると考えられた。



○保護区画の設置(12区画)



○看板の設置

■プロジェクトP 2016 実施報告（実施時期：平成28年6月～平成29年3月）

－環境保全とESD（持続可能な開発のための教育）についての理解を深める－

旭川校 社会科教育専攻 1年 千葉 晴希

私たちは「プロジェクトP 2016」の活動として、清掃ボランティアと国際理解教室開催に取り組みました。国外では、フィリピンの教育機関と連携して環境教育や国際理解教育の分野に相当するESD（持続可能な開発のための教育）の展開を試みた。今後も、このプロジェクトで学んだことを積極的に発信していくとともに今後の学校生活に生かしていきたい。



旭川市内での清掃活動

フィリピンでの清掃活動

フィリピン ラグナ湖での稚魚放流

■みんなの環境地図ワークショップ 2016 実施報告（実施時期：平成28年10月）

－私たちの身のまわりの環境地図作品展ワークショップの開催－

旭川校 社会科教育専攻 2年 横山功太郎

私たちは平成28年10月23日、旭川市科学館サイバルで行われた「私たちの身のまわりの環境地図作品展」でワークショップを開催しました。

ワークショップでは子どもたちの地図や地理に対する関心を高め様々な技能・知識を共有することを目的とし、旭川校地理学ゼミが主体となって、主にグループ対抗のクイズ大会などを開催しました。

今後も環境地図作品展を通して、全国の子どもたちが環境地図に興味を持ってもらうとともに、運営を行う学生も勉強させていただきたいと思っています。



■桜 SAKURA プロジェクト2016 実施報告（実施時期：平成28年10月～平成29年3月）

－旭川校社会学ゼミ活動での環境保全の取り組み－

旭川校 社会科教育専攻 3年 原田 竣史

我々北海道教育大学旭川校社会学ゼミでは、日ごろのゼミ活動から環境保全の取り組みについて考えています。しかしながら、実際に自分たちの手で何か活動をしているわけではなく、個人個人が実際に講義等で学んだ活動を実践するに留まっていた。その上で、今回は実際に自分たちの手で温室効果ガスの二酸化炭素削減に効果があるといわれている植樹活動を行い、その意義を再確認するとともに、大変さについて身をもって学ぶことができると考え企画しました。

オオヤマザクラの苗の植樹作業後は、降雪もあってゼミ活動として木々のチェックを行っていないので、春になって様子を確認し、必要に応じて木を支え直したり、剪定、害虫の駆除などを行いたい。



■Earth Day HAKODATE 実施報告（実施時期：平成28年10月～H29年3月）

－函館「第12回地球まつり」の outlet と「Earth Day HAKODATE 2017」の準備－

函館校 国際協働グループ 2年 土門 寛治

私たちアースデイ函館実行委員会は、函館市民の環境問題に対する意識向上及び個人の行動を喚起するきっかけづくりを目的として、地域のイベント参加やアースデイ函館の実施（2017年4月23日実施）に向けた周知活動を行いました。



函館「第12回地球まつり」の outlet

アースデイ函館のパフレット作成

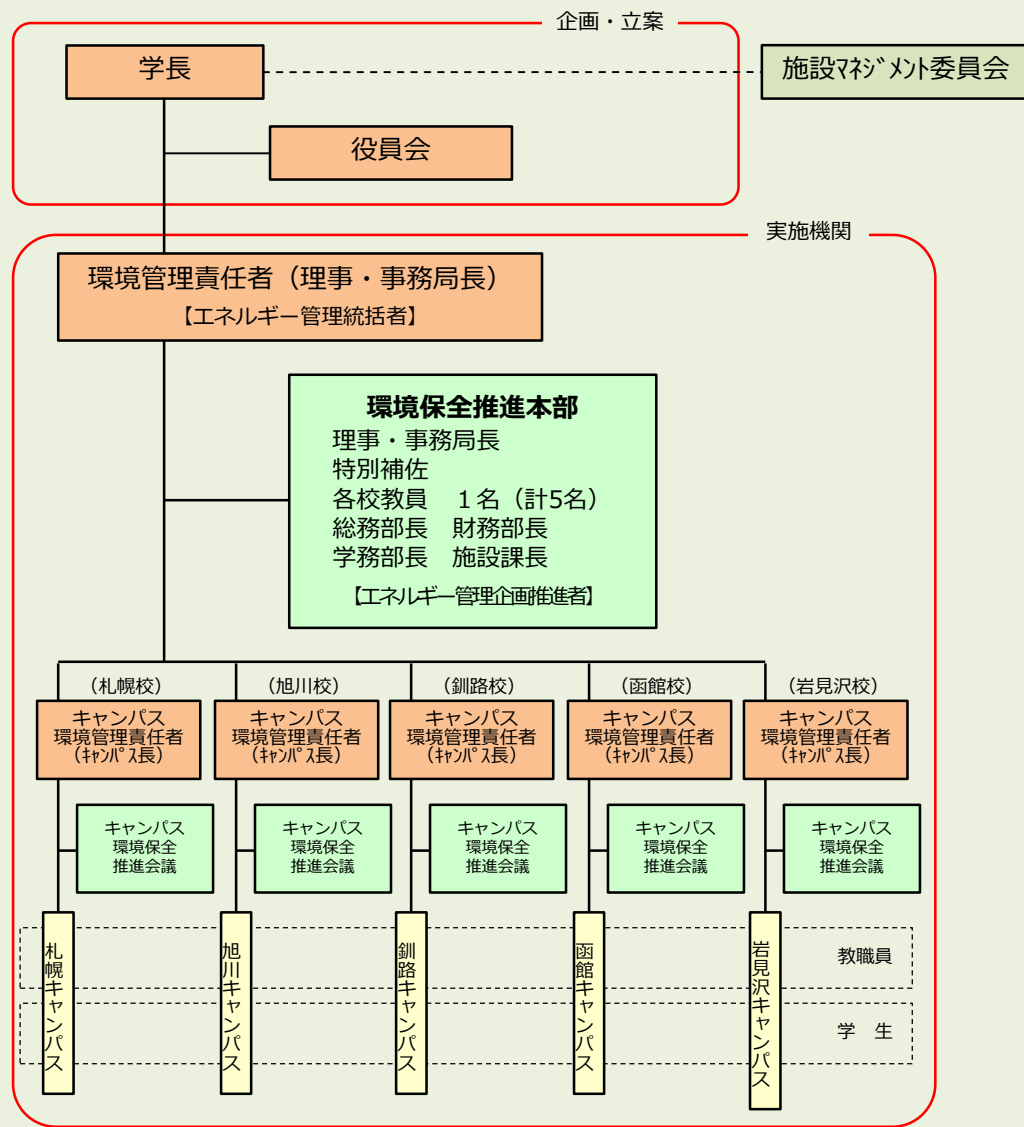
本学の使命は、北海道の歴史と風土に根ざしつつ、教師をはじめ地域のための優れた人材を養成し、さらに、教育、研究及び社会貢献活動を通じて、社会の発展と人類福祉の向上に貢献することです。この使命に相応しい大学環境を構築し、環境に関わる世代間の平等を尊重する社会人の育成に努めます。

基本方針

本学の基本理念に基づき、各キャンパス内の全ての教職員及び学生等の協力のもとに、以下の活動を積極的に推進します。

- i 本学の特色である文系と理系の知恵を集積し、また附属学校や近隣の学校と連携し、北海道教育大学としての長を活かした環境教育と研究の実践を進めます。研究成果の普及により、地域環境及び地球環境の改善に努めます。
- ii 教職員及び学生等全体で快適な学内環境の構築に努めます。学生の主体的な参加によって実施するために、学生による自主的な環境活動を推奨し、多様な環境プログラムが実施されるキャンパスを目指します。
このことにより、環境改善に資する能力を持った人材育成に努めます。
- iii 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化及び化学物質の適正管理などにより、汚染の予防と継続的な環境改善を行います。これらにより環境負荷の少ない快適なキャンパスを実現します。
- iv 本学に適用される環境関連の法令及び本学が決めた事項を守ります。

環境保全推進本部体制図



地球温暖化対策に関する実施計画2014について

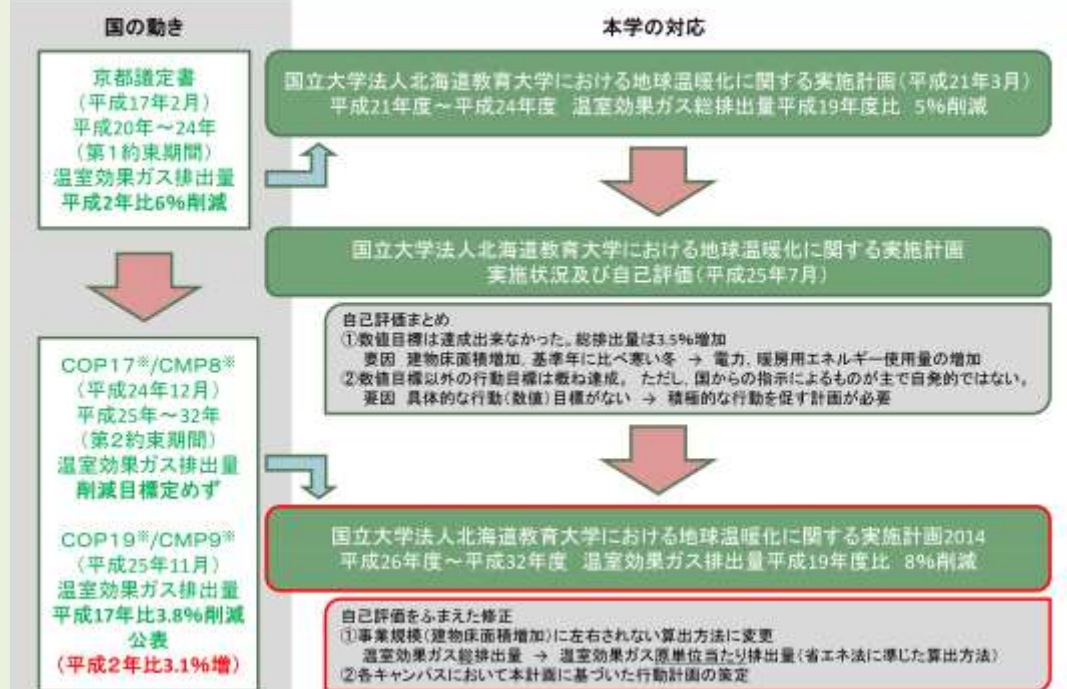
本学では、2009（平成21）年3月に温室効果ガスの総排出量を、基準年を2007（平成19）年度とし、2012（平成24）年度までに5%削減することを目標とした「国立大学法人北海道教育大学における地球温暖化対策に関する実施計画」を策定し、目標を達成すべく努力してきました。

2013（平成25）年7月に、実施計画に対する取組状況について自己評価を実施し、国の動向を踏まえ、新たに「国立大学法人北海道教育大学における地球温暖化対策に関する実施計画2014」を策定し、2020（平成32）年度までに温室効果ガス排出量を8%（原単位当たり）削減するなどの目標を定めました。

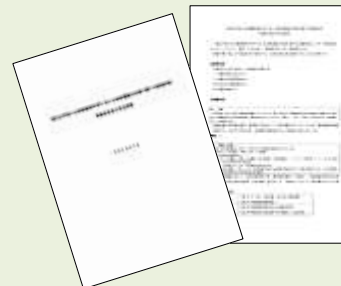
詳細については、下記アドレスにてご覧になれます。

URL: <http://www.hokkyodai.ac.jp/intro/chikyundanka.html>

地球温暖化に関する実施計画2014 概要



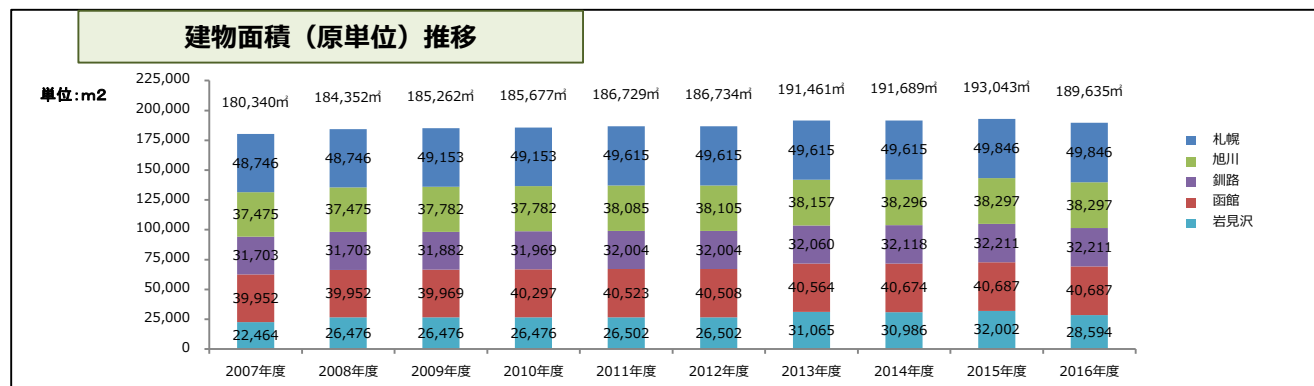
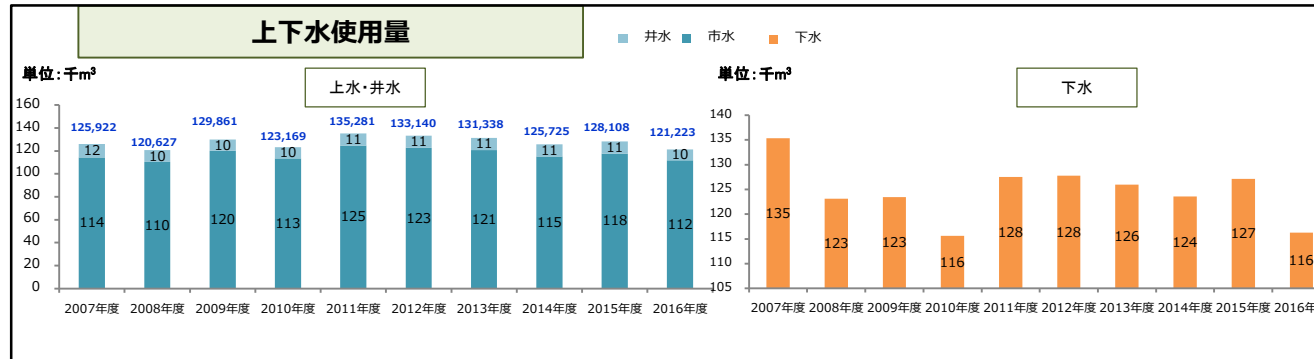
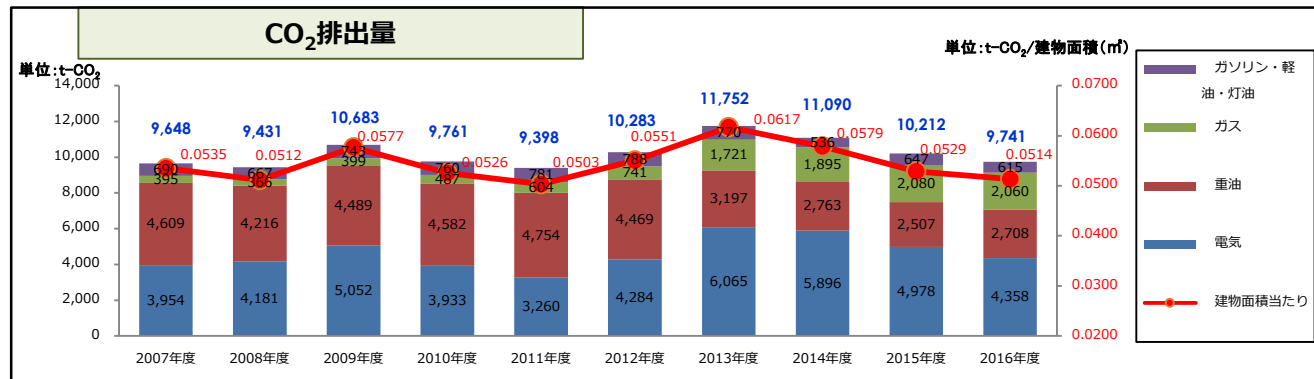
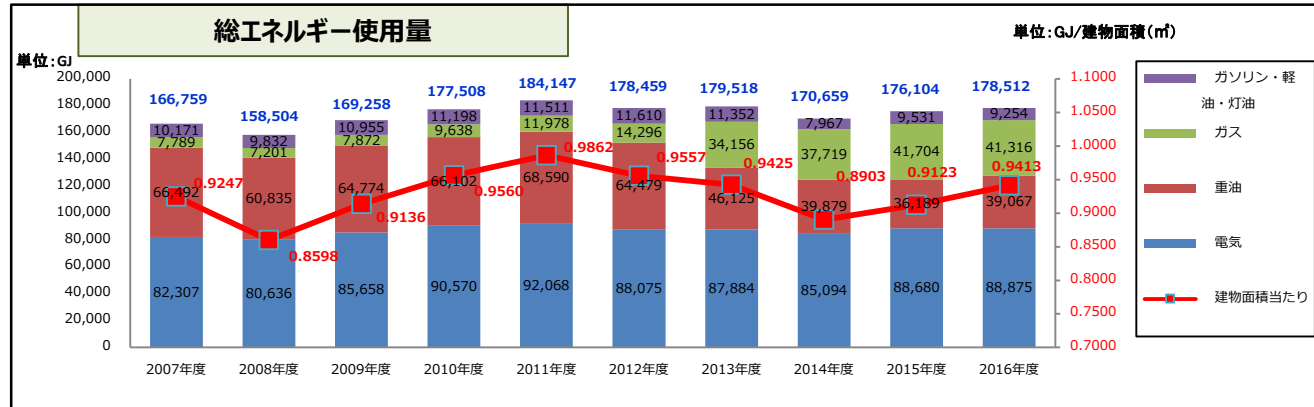
※COP17・19:国連気候変動枠組条約第17・19回締約国会議 CMP8・9:京都議定書第8・9回締約国会合



「国立大学法人北海道教育大学における地球温暖化対策に関する実施計画」は平成24年度にて最終年度となり、平成25年7月に自己評価を実施しました。結果は、数値目標では達成できませんでしたがその他の活動についての評価は、「概ね目標を達成した」となりました。

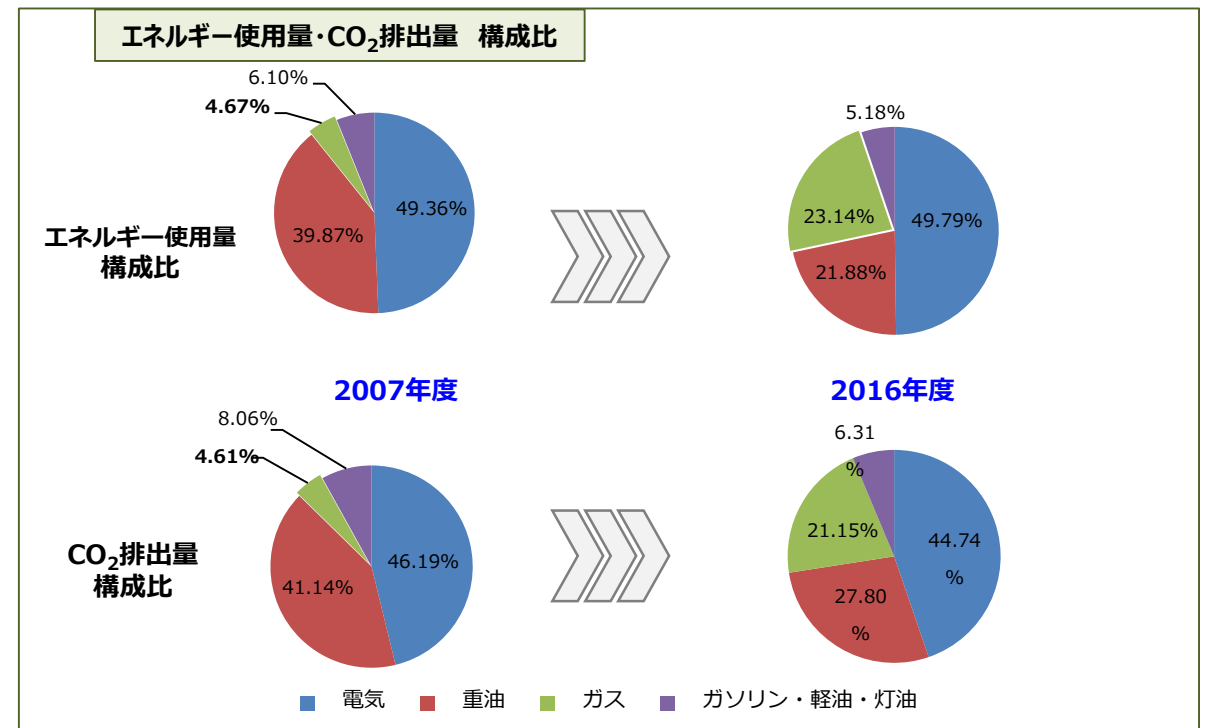
エネルギーの有効活用と節約の継続推進

2016年度は、エネルギー使用割合の高い建物の本格稼働もあり、前年度と比較して総エネルギー使用量は増加となりましたが、2015年度下半期より二酸化炭素排出係数が低値の電気事業者から買電を行った結果、CO₂排出量は減少となりました。また、昨年に引き続いて、省エネの啓発活動を行いました。



エネルギー転換の推進

CO₂総排出量削減のため、暖房のための熱源である重油を、天然ガス(13A)へ燃料転換を実施しています。そのため、2007年度に比べ、天然ガス(13A)の使用量が増加し、重油使用量が減少しています。2016年度には、エネルギー使用量構成比で、ガス使用量が約5%から約23%になり、重油及び灯油から天然ガスへのエネルギー転換を行いました。



換算係数等

種類	換算係数	単位
電気	9.97	GJ/Mkwh
重油	39.10	GJ/kl
都市ガス(6C, 5C)	20.90	GJ/Mm ³
都市ガス(13A)	45/46	GJ/Mm ³
LPGガス	50.80	GJ/t
ガソリン	34.60	GJ/kl
軽油	37.70	GJ/kl
灯油	36.70	GJ/kl

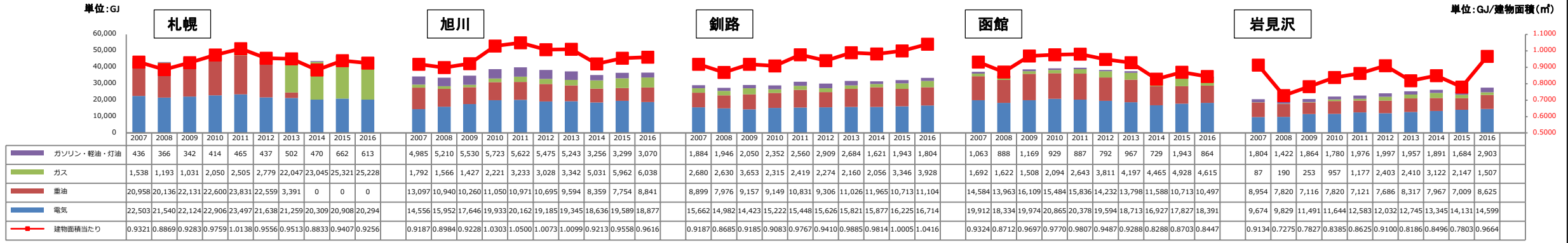
換算係数は、環境報告書ガイドラインを参照(都市ガスについては、供給事業者のデータを参照。)

種類	換算係数										単位
	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	
電気	0.479	0.517	0.588	0.433	0.353	0.485	0.688	0.678	0.683/0.454	0.669/0.480/0.365	t-CO ₂ /Mkwh
重油	2.710	2.710	2.710	2.710	2.710	2.710	2.710	2.710	2.710	2.710	t-CO ₂ /kl
都市ガス(6C/5C)	1.042	1.042	—	—	—	—	—	—	—	—	t-CO ₂ /Mm ³
都市ガス(13A)	2.299	2.299	2.299	2.299	2.299	2.299	2.299	2.244/2.294	2.244/2.294	2.244/2.294	t-CO ₂ /Mm ³
LPGガス	2.999	2.999	2.999	2.999	2.999	2.999	2.999	2.999	2.999	2.999	t-CO ₂ /t
ガソリン	2.322	2.322	2.322	2.322	2.322	2.322	2.322	2.322	2.322	2.322	t-CO ₂ /Mkl
軽油	2.585	2.585	2.585	2.585	2.585	2.585	2.585	2.585	2.585	2.585	t-CO ₂ /kl
灯油	2.489	2.489	2.489	2.489	2.489	2.489	2.489	2.489	2.489	2.489	t-CO ₂ /kl

換算係数は、環境報告書ガイドラインを参照(電気及び都市ガスについては、供給事業者のデータを参照。)

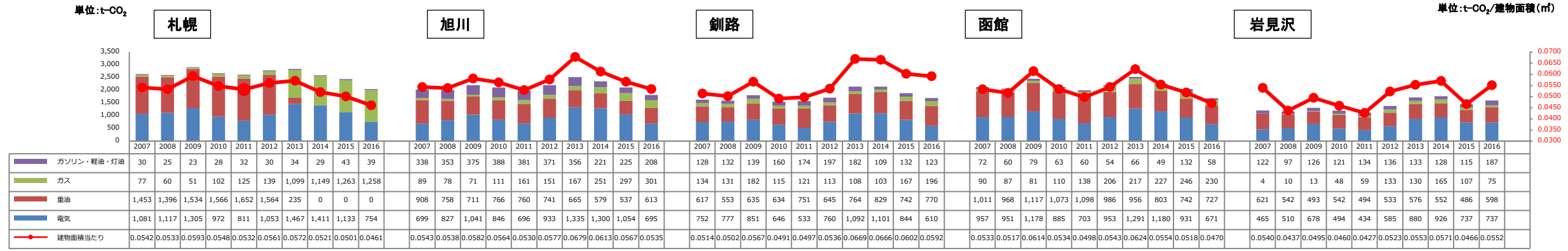
総エネルギー使用量

単位:GJ



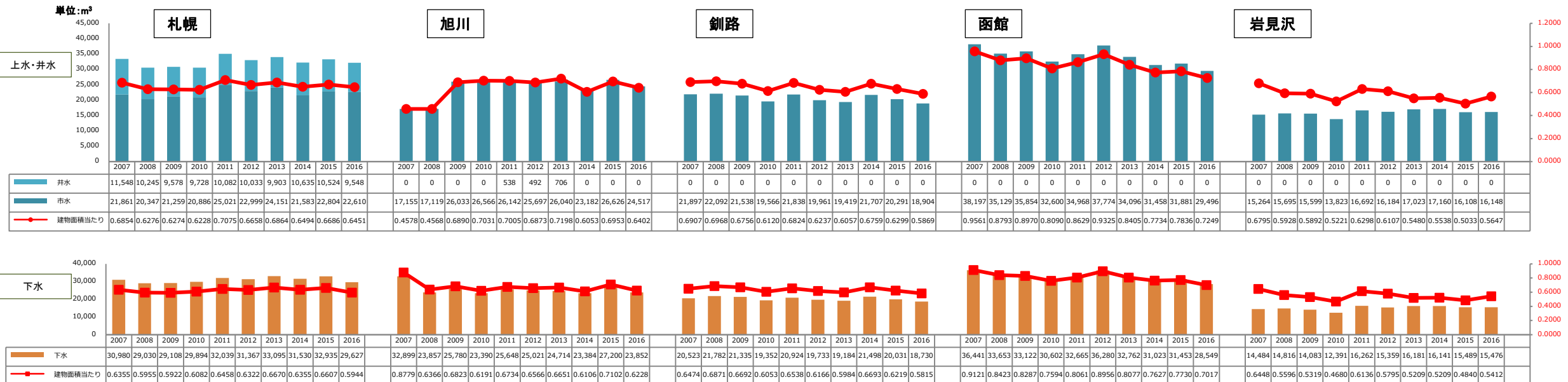
CO₂排出量

単位:t-CO₂



上下水使用量

単位:m³



環境汚染物質の管理と排出等について

1 下水の検査と管理の状況

区分	検査と管理の現状				
	対象	検査と内容	検査回数	検査結果	
札幌校	下水道	大学系統最終放流口	水質検査	年2回	適合
旭川校	下水道	最終放流口	水質検査	年1回	適合
函館校	下水道	2号館系	水質検査	年1回	適合
		8号館系	水質検査	年1回	適合
		厚生会館系	水質検査	年1回	適合

2 有害化学物質の管理と廃棄の状況

各種化学薬品類

校名	有害物質	容器の	分類	保管	処理等	管理記録	特別管理産業廃棄物 管理責任者の選任
	名称	形状					
札幌校	廃試薬・ 廃液等	専用容器	クロム・水銀・シアン・その他	屋内	2017年3月	実験廃液処理	契約グループ係長
				分別	業者処理	依頼伝票	講習修了者
旭川校	廃試薬・ 廃液等	専用容器	クロム・汚泥・廃酸・その他	屋内	2016年5月,7月,	処理依頼伝票	教員
				分別	2017年1月,2月業者処理		講習修了者
函館校	廃試薬・ 廃液等	専用容器	有機・無機・亜鉛・クロム・シアンその他	屋内	2016年12月	実験廃液処理	財務グループ総括係長
				分別	業者処理	依頼伝票	講習修了者

※ポリ塩化ビニル廃棄物（PCB）について
本学では高濃度PCB機器類については2015年6月までに処理済み、また低濃度PCB機器類については2016年2月までに処理済み

3 廃棄物の処分量

固形廃棄物 分別区分	札幌校		旭川校		釧路校		函館校		岩見沢校	
	廃棄量	単位	廃棄量	単位	廃棄量	単位	廃棄量	単位	廃棄量	単位
可燃ゴミ	132	m ³	526	m ³	24,360	kg	692.5	m ³	168	m ³
不燃ゴミ	-		302	m ³	-		32.8	m ³	-	
粗大ゴミ	14	m ³	-		-		-		15	m ³
産業廃棄物	67,941	Kg	8,290	Kg	9,135	kg	17,741.37	Kg	24	m ³
							1.5	m ³		
産業廃棄物 (OA機器類)	221	m ³	-		122	台	88	台	-	
放置自転車の 処分量	36	台	-		-		-		-	
その他	-		-		(生徒用椅子) 76	脚	(紙類)2,260 (PCB非含有安定器) 83	Kg 台	(蛍光灯) 125	kg

4 リサイクル量

品目	札幌校		旭川校		釧路校		函館校		岩見沢校		
	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	
古新聞	2,890	kg	資源ゴミ	163	m ³	古新聞	757	Kg	資源ゴミ	134.4	kg
ダンボール	5,130	kg	家電 (テレビ)	8	台	古雑誌	10,035	Kg	古新聞	805	Kg
OA紙	50	kg	家電 (冷蔵庫)	3	台	資源ゴミ	11,055	Kg	古雑誌	3,190	Kg
古雑誌	19,690	kg	金属くず	5,650	Kg	家電 (テレビ)	12	台	ダンボール	880	Kg
シュレッダー紙	5,550	kg			家電 (冷蔵庫)	3	台	鉄くず(H2)	280	Kg	
びん・缶・ペット ボトル	135	m ³			家電 (洗濯機)	4	台	鉄くず(H3)	520	Kg	
資源化ゴミ	350	m ³					アルミくず	40	Kg		
家電 (テレビ)	18	台							空きビン	3	m ³
家電 (冷蔵庫)	19	台							空き缶	9	m ³
家電 (洗濯機)	9	台							家電 (エアコン)	1	台
OA機器類	65	台									
鉄くず	1,220	Kg									

5 環境保全コスト

分類	内容	コスト額
(1) 事業エリア内コスト		円
(1) - 1 公害防止コスト	大気汚染防止・水質汚濁防止・その他公害防止のためのコスト等	6,107,233
(1) - 2 地球環境保全コスト	地球温暖化防止・省エネルギーのためのコスト等	5,370,016
(1) - 3 資源循環コスト	資源の効率的利用・廃棄物のリサイクル、処理、処分のためのコスト等	17,208,006
(2) 管理活動コスト	環境情報開示・緑化、美化、景観保持の環境改善対策のためのコスト等	8,457,804
(3) 研究開発コスト	環境保全に資する・環境負荷の抑制のための研究開発コスト等	-
(4) 社会活動コスト	事業（所）に直接的に関係のない社会活動におけるコスト等	640,488
(5) 環境損傷対応コスト	自然修復・環境保全に関する損害賠償のためのコスト等	178,200

1 平成28年度の学部における主な環境関連科目の開設状況 及び 特色ある環境教育活動・取組

(札幌校)			
キャンパス	科目	担当教員	講義内容
札幌校	臨海実習	木村 賢一 高久 元	本実験は、海産無脊椎動物および海藻類に関して、野外で採集を行い生きている材料をもとに、それらの形態的特徴や多様性を学ぶ。また、海産動物の受精の瞬間や初期発生の連続観察など発生に関して学ぶ貴重な機会である。
		渡部 英昭 並川 寛司	野外活動を中心とした実習であり、植物および菌類（キノコ）の同定・分類技術を身につける実習である。
	物理学特論II B	尾関 俊浩	物理基礎科目の学習内容に基づいて、発展的課題研究・解析に取り組む。雪と氷の基本的な物性について理解する。水の相変化にともなう諸現象を理解する。氷の結晶構造について理解する。
	作物栽培	出口 哲久	「作物栽培」とは、食料生産の基本であり、作物を育て収穫するすべての手段で、その目的は最大あるいは最良の収穫物を得ることです。本授業では、地域や気候に適した作物や品種の選択、生長や生育に関わる環境要因の理解、生産の向上や不良環境に対応した栽培技術について概説します。学校現場で行われる植物育成や栽培活動の指導内容を理解し、植物育成教材を効果的に活用できるようになる。
	大気科学		日常生活と深く関わる大気現象を理解する上で基礎となる大気科学を学ぶ。大気の鉛直構造、オゾン層の破壊、大気の安定・不安定、降水粒子の成長、大気における放射、温室効果、大気大循環など
	地球と宇宙III	高橋 庸哉	日常生活と結び付いた猛暑や大雨に関連する話題を地球温暖化やヒートアイランド、都市気候などと絡めて学習する。地球温暖化の実態とメカニズム、ヒートアイランドの特徴、都市気候、局地風、広域ヒートアイランド。猛暑、大雨など。
	自然科学入門		人類にとって、最も身近で不可欠な空気、地球を取り巻く大気、その中で起こる様々な大気現象。本講義では、これらを取り上げます。身近であるので、小中学校教員になった時に大いに役立ちます。実験演示では、児童・生徒の五感に訴え、科学に対する興味・関心を高める実験を紹介します。
	地学概論I	岡村 聡	地球惑星を含む太陽系について、主として元素の化学的性質を取り上げながら、恒星や隕石の性質をもとに解説する。地球がどのような歴史を経て現在のような生命をはぐくむ惑星になってきたのかを考え、地球環境の成立過程とその歴史性について学ぶ。
	環境マネジメント	大矢 智	地球温暖化をはじめとする地球規模の環境問題の解決には、市民一人一人の日常的な省資源・省エネルギーへの取り組みが不可欠である。しかし、このような活動を、学校や社会の中で組織的あるいは系統的に実践していくこと、つまり環境マネジメントを行うには、基礎的な知識と実践経験が必要である。この講義では、受講者に、将来小・中学校の教員となった際、学校での環境マネジメントに寄与できるような知識を教授し、その知識をもとに環境の見直し、その改善を実行できるような資質を育むことを目的とする。
	環境科学実験I C	並川 寛司 渡部 英昭 木村 賢一 高久 元	森林、河川など様々な環境における動植物の野外調査を中心に、調査方法、同定の方法、データ処理などの技術の習得を目指すとともに、環境と生物の関わりを学ぶ。 野外での動植物の調査方法と得られたデータの統計的な分析から、結果を記述し考察を加えてまとめる力を養う。 野外での動植物の調査方法と得られたデータの統計的な分析から、結果を記述し考察を加えてまとめることができる。
環境教育教材開発	坂田 義成	地球環境がどのようにして形成されてきたかを、ビッグヒストリーに基づいて、地球の誕生、生命の発生、進化、人類の出現、文明の起こりと近代文明の発展に関わって学ぶ。さらに、地球環境の現在の状況を知るとともに、その問題点、生態系に与える影響、人類の将来に関わる影響について認識を深める。また、それを学校教育の中で、次代を担う子供達に正しく伝え、地球や人類の明るい未来を切り拓く力を育成するために、どのような授業を構築するべきかを考える。	
環境地誌学	武田 泉	地域の環境問題や環境政策を、地理学・地誌学的観点から実地に把握することを目的とする。このため、講義と共に一部は現地にて体得したり、環境に関する自らの興味関心分野についての発表・報告も行う。地域の環境の理解に必要な地域理解のリアリティのため、地域で生じる時事問題を適宜扱う。	
化学と地球の環境	菅 正彦	地球環境の化学についての基礎的な講義を行なう。(宇宙の中の地球、地球のすがたと環境問題等)	
野外環境教育学特別演習 (札幌校・岩見沢校大学院科目)	能條 歩	自然体験教育を環境教育の一環として考える場合、社会教育と学校教育のどういった場面で実施するかが重要なポイントとなる。学校教育の内容を規程するのが社会(市民)であるとするならば、市民が環境教育的な視座から現状を認識するための素養を持っていないければ、適切な学校教育は行われないだろう。一方、社会(市民)が環境教育的な視座から現状を認識するためには、公教育(学校教育)において適切な環境教育が行われる必要があるはずである。これまで環境教育が体系的に実施されてこなかった現状を考えれば、このことは社会教育と学校教育の両方において、両者をつなぎつつどういった教育活動を展開すべきを示すことが喫緊の課題となっていることを示す。 この演習では、長期の自然体験教育の目的論や学習内容についての議論や、野外教育(環境教育)において不可欠な、しかし現状では取り扱いが不十分と考えられる発達段階に即した自然環境教育の体系化に焦点を当て、上述の課題に関する考察を行なう。	

(旭川校)

キャンパス	科目	担当教員	講義内容
	経済学特別演習	佐々木 謙一	本授業の題材として開発途上国の貧困を取り上げ、ミクロ経済学の基礎的理論を用いて、途上国の経済活動と貧困削減政策を考察する授業です。授業を通して、以下に示す4つの資質・能力を身につける。 1 私達の日常生活と地球社会の様々な課題との関わりについて学際的に考察できる。 2 途上国における貧困と教育の問題について、適切な統計資料を用いて説明できる。 3 貧困層の労働市場について、実例、数式やグラフを使って説明できる。 4 貧困削減政策について、実例、数式やグラフを使って説明できる。
旭川校	環境教育基礎論	相馬 一彦 橋野 晶寛	私たちは、当たり前のように呼吸し、飲食、排泄などを繰り返していますが、それらを支えているすべてのものが環境であるということをつい忘れがちになります。生の根源を見つめ直すことが環境問題を考える礎であり、そこを見逃しては、着実な環境活動は実行されません。富良野自然塾の「環境教育プログラム」を通して環境を実感することで、将来、教師として環境教育に携わる際の基礎的な視点の獲得を目指します。
	環境地球科学	和田 恵治	現在の地球環境を大局的に知るためには、地球の歴史だけでなく現在の地球物質の循環や自然の成り立ちを理解することが重要である。本講義では、地球システムを概観したあとに、地球温暖化問題(気候変動)、自然災害(地震、気象、火山噴火)、地球の水の起源、日本海と日本の自然(身近な自然環境の成立)、地球の変遷と人類史(とくに過去1万年間)、ジオパークの理念と地球環境の5つの項目に焦点をあてて地球環境を学ぶ。

■ 雪から広がるさまざまな学びのサポート～北海道雪プロジェクトの取り組み(北海道教育大学札幌校理数教育専攻 高橋 庸哉 教員)

期 間：通年

場 所：札幌市立山の手南小学校ほか

実 施 者：高橋庸哉教員(北海道教育大学札幌校)

【実施内容】

- ・本プロジェクトのWebページ「北海道雪たんけん館」による教育現場への雪に関する教育情報提供。「カードゲームで楽しむ雪の学習はじめの第一歩」を一般公開した。(URL：http://yukipro.sap.hokkyodai.ac.jp/)
- ・指導的教員向け夏こそ！雪プロセミナー「新千歳空港内の雪冷房施設・除雪施設の見学および質疑」(7月28日新千歳空港で開催)を実施した。
- ・教員向け「雪の学習研究会」(1月27日札幌市立山の手南小で開催、参加者65名)を実施した。
- ・教育現場のサポート：道内小学校4校での出張授業の実施及び降雪観察キットの貸出しを行った。
- ・小学生が行った雪に関する調べ学習の成果を発表する。「雪と暮らすおはなし発表会(札幌市主催)」に協力した。

■ 茨戸川緑地や道民の森での林業体験(育樹・草刈・伐倒、他の各種体験)の実施(北海道教育大学札幌校総合学習開発専攻 武田 泉 教員)

期 間：通年

場 所：茨戸川緑地、道民の森

実 施 者：武田 泉教員(北海道教育大学札幌校)

本学の地理学研究室における、林業体験学習は既に20年以上の歴史を有する。当初は岩見沢校において、当時の道庁空知支庁や岩見沢森づくりセンターの協力を得て、地理学関連講義や1年次用基礎的講義の一環として、現場見学や林業体験を実施するようになり、教員免許状更新講習でも行うようになった。

担当者が札幌校に異動後も、茨戸川緑地管理事務所(北海道造園コンサルタント(株))や道民の森管理事務所、道庁林務部、札幌市みどりの推進課等の協力の下、大学裏に位置する札幌市が管理する茨戸川緑地で、岩見沢校時代から引継ぎ、地理学関連講義やフィールド科目の一環として、また教員免許状更新講習でも、学生向け、学校教員向けに、現場見学や林業体験を実施を継続している。本格的な体験内容については、道民の森へ大学バスで出かけて実施している。教員免許状更新講習では珍しい、座学ではない現場実習であるため毎年人気があり、必ず道外からの参加者を迎えている(沖縄・兵庫・神奈川・千葉等)。

なお2017年度はこれらの活動について、国土緑化推進機構の「グリーンウエーブ2017」にも応募した。

(平成28年度の学部における主な環境関連科目の開設状況 及び 特色ある環境教育活動・取組) (旭川校・釧路校)

キャンパス	科目	担当教員	講義内容
旭川校	現代と科学	松田 禎行 永山 昌史 関口 朋彦 今村 彰生	断片的ではあるが、化学・物理・生物・地学の各分野で科学教養の一端を学ぶ。 化学・物理・生物・地学の各分野から現代人に必要な自然科学教養の一端を身につける。 環境分析一般、科学で環境問題は解決するか、ほか
	現代と社会	角 一典 西村 邦行	本講義は「水俣病」と「個人と社会」をテーマとして授業を進めてゆく。 (1) 多くの教科書において「過去の話」として扱われている水俣病について、その発生・解決の過程および実際には未だに終わりが見えない水俣病の現状を確認し、そこから、自らの生きる社会において重要なことがなにかということについて考える。 (2) 戦後社会史のいくつかのテーマをとりあげて、日本における今日の問題の淵源を考える。同時に、戦後とは何か(戦後70年というように、なぜいつまでも戦後という時期区分を使い続けるのか)を考える。
	社会調査実習1	角 一典	北海道における再生可能エネルギー利用によるまちづくりおよび環境系の社会的企業を研究課題として、社会調査の企画・実行・調査結果のまとめまでの、一連の作業を行う。
旭川校	環境リテラシー	大森 享 野村 卓 平岡 俊一 伊原 禎雄	地域や世界規模の環境問題の解決に貢献できるような環境教育を進めていくためには、「環境とは何か」「環境問題とは」「環境問題の原因」についての知識を整理し、構造化し、さらに「環境と人間との関係」への深い考察を試みることが不可欠である。このような試みを行い、意思決定に生かしていく知的能力のこと「環境リテラシー」と定義する。この講義を通して、学生が環境リテラシーを身につけ、それを自ら磨き上げていくための方法に慣れることが期待される。前半の8回の授業で、「持続可能な開発のための教育(ESD)と環境教育」「子どもと環境教育」「地域の生態系」「環境問題と人間活動」について教員が講義を行なう。後半の6回では、提示された環境問題や環境教育にかかわる課題群の中から小グループ(2, 3人)の学生が選択した課題についての「ミニリサーチ」(調査活動と自らの意見形成のための調査データの分析検討を行なうこと)の成果を発表してもらい、全員でディスカッションを行い、個々の課題間の結びつきや、問題解決のあり方、環境教育の役割等についての意見を交換する。その際、毎回教員が司会と指導および補足説明を行う。最終回には全体を通した総合討論を行い、教員がまとめを行なう。
	環境を読む		「環境」について、これまでの経験や学習からおおまかなイメージは誰でも持っているであろう。しかし大学で「環境」にかかわるものごとを学習したり考察していくためには、「環境」とはどのようなものであるか、また、「環境」とはどのような意味・価値を持つものなのかについて再確認することが必要である。この授業は、さまざまな書物をととして色々な考えを知り、「環境」や「環境問題」にかかわるディスカッションを通じて、みずからの考えを作り上げていくことを目的としている。 また、この演習は大学での4年間の学びへの入り口となるものである。文献、資料を批判的に読み解く力、読み取った事柄や自分の意見を具体的な根拠に基づいて他者に伝える力、自分と異なる意見に耳を傾け、討論を通して、自他の視野を広げることのできる力を身につけてほしい。このような観点から、この授業では、環境論、自然環境、環境問題、環境教育、環境保全などにかかわりをもつ、新書本程度のもを課題図書とし、全員が読んできて授業に参加し、みずからの意見や体験とからめながら討論を行う。講読を通して、環境についての基本的な知識、理解を深めるとともに、環境に対する関心を深め4年間を見通した学習活動のベースとなる視点、意識を形成することを期待する。
釧路校	環境と産業技術	野村 卓	教員による知識伝達型を基本としながらも、受講学生がグループを形成し、産業や社会が抱えている環境的課題を設定-調査-報告(発表)を通して、協働学習型の知識習得を目指すものである。特に、3.11の大震災までは、エネルギーの課題は、日本の地理的、経済的発展の土台を形成し、今日まで我々に、ある意味の豊かさを提供してきた。それが震災以降、状況は一変した。そこで、未来志向の産業技術の在り方を考える前に、まずは、震災以前は産業技術の発展はどのようなものであったのかを振り返ることとする。 特に、食品産業の発展形態・経緯を見れば、経済的、文化的、社会的変貌に、主にいり、従いに影響を与えてきたことがわかるであろう。同時に、それぞれの産業を支える技術とはそもそも何なのか?という問いも避けては通れない。教育技術としての方法論や内容論と何が同じで、何が違うのか?これらを理解することは、教師として、社会と関わり、隔絶しないことを保障されることを意味する。そして、震災以降、環境との関わりで、産業技術はどうあるべきかを、協働学習を通じて整理していく。未来に向けたあるべき姿を問う時、正解はありえない。改めて、学習によって如何に情報を集め、整理し、判断するかが問われる。その上で、産業技術を教材としてどう取り扱つかが見えてくる。それらを問う講義となる。
	地域社会と環境	平岡 俊一	地域社会における環境問題・保全活動を社会学的に分析・考察する考え方について学んだ上で、それに環境経済学や地域社会学、都市計画などの視点も加えて、実際に地域社会における環境保全に関する取り組みの具体策、担い手、体制などについて考えることを目的とします。講義全体を通して、環境保全を通じた地域社会の変革・発展の可能性についても考えていきます。
	エコウォッチング	伊原 禎雄	生物は季節に応じて変化する。この授業では生物の季節的変化を希少な生物が息づく釧路湿原と身近な春探湖にてこうした生物の季節変化を観察し、環境と生物との関係や生態系の構造変化についての生態学的な知識を深めることを目的とする。
	山岳生態学実習		北海道には優れた自然環境が多く残されている。特に山岳地域にはそうした環境が多く、標高の違いに応じて様々に変化する。本授業では北海道にある代表的な山岳地域にて生態学的観点に基づいた動植物観察を主体とした実習を行う。
環境教育プランニング演習1	社会選択において開発と保全とのバランスを図ることが重要な課題となっている。このバランスを図るには地域社会が身近な生物や周囲の生態系が持つ意味を理解することが重要なカギとなる。そこで本科目では身近な生物や地域生態系を観察するための生態学的な視点を学ぶとともにそれを基盤とした環境教育の課題についての理解を深める。授業形態として、各課題について学生自らで情報を渉猟し、考えをまとめたものを発表し、討論を行う。本授業の最後には、実際に学生が観察会を開催する。		

■ 地理学実習Ⅱ(バリ島巡検)の実施 (釧路校学校カリキュラム専攻 酒井 多加志 教員)

期 間：平成28年11月18日～11月23日
場 所：インドネシアバリ島
実 施 者：酒井 多加志 教員(北海道教育大学釧路校)

【実施内容】

インドネシアのバリ島スバリ村にて農村トレッキングを実施した。スパックと呼ばれる水田の水利灌漑システムおよび農業集落の視察を行った。また、クサンバの塩田農家を訪問し、塩の製法についての説明を受けた。帰国後、巡検発表会を実施した。



■ 彫刻演習Ⅰの校外学習で前田一步園財団との連携事業を実施 (釧路校学校カリキュラム専攻 福江 良純 教員)

期 間：平成28年11月14日
場 所：インドネシアバリ島
実 施 者：福江 良純教員(北海道教育大学釧路校)

【実施内容】

彫刻演習Ⅰの校外学習として、阿寒の森と湖を保全する(一財)前田一步園を訪問し、財団の事業理念のレクチャーと作品素材としての風倒木をもらい受ける取り組みを実施しました。こうして持ち帰った森の素材は、これからオブジェとして作品化され、その一部は2月22日から26日にかけて美術研究室の作品展アートハウスにも出品した。



■ 天文観測の実施 (釧路校学校カリキュラム開発専攻理科分野 地学研究室, 釧路校天文部)

大気保全の啓発や大気環境の観察を踏まえて、2016年5月27日に火星等の観測会を実施しました。およそ2ヶ月ぶりに火星が地球に接近しました。今回の接近では地球と火星の距離が11年ぶりの近さ(7,528万km)となりました。



20cm反射経緯台で火星を観測する天文部員

左から土星、火星、木星。10.2cm屈折赤道儀を使用。木星のみ5月14日撮影

(平成28年度の学部における主な環境関連科目の開設状況 及び 特色ある環境教育活動・取組)

(函館校・岩見沢校)

キャンパス	科目	担当教員	講義内容
函館校	現代地域教養Ⅱ(環境経営学)	浅木 洋祐	経営学の概要を学んだ上で、環境経営の理論と、環境経営を実践するマネジメント技術(ISO14001、環境報告書など)について学習する。
	現代地域教養Ⅲ(世界の環境問題)	田中 邦明	世界各地で発生している代表的な環境問題の実情と解決取り組み事例を紹介しながら、それら環境問題発生の原因とメカニズムについて解説し、環境問題の自然科学的および社会科学的な2つの側面から問題解決の困難性や深刻化する理由についての理解を深める。
	環境教育		環境教育の必要性と目的を自然科学および社会科学の両側面から理解し、学校や地域において持続可能な社会を実現するための実践理論や子どもの発達段階に見合った環境教育の代表的手法について講義する。
	環境科学入門	田中 邦明 松浦 俊彦	地球規模で発生しつつある環境問題を解決・予防するための学問として成立してきた環境科学の目的と諸分野、環境問題の発生と持続のメカニズム、環境問題の解決戦略について論ずる。
	国際環境協力事業	畠山 大	「国際環境協力事業」の「現場」の事例紹介ではなく、既存の経済学が「環境」とどう向き合っているのか、いないのか、についての理論的、政策的な問題を履修者と一緒を考えていきたい。
	基礎環境化学a,b	中村 秀夫	さまざまな環境問題を化学的に正しく理解するのに必要な化学の基礎知識を講義する。
	地域環境科学概論Ⅴ(物理学概論)	竹中 康之	講義を通してさまざまな環境問題を物理学的に正しく理解するために必要な物理学の基礎知識および物理学的思考法を学習する。
	環境と人間社会	環境科学教員	この講義を通して学生は、身近な人間社会に存在する様々な環境問題について知ることが出来るとともに、後期の方野配属に向けて、それぞれの分野に関わる環境に関する課題を知ることが出来る。
	生命環境科学実験Ⅱ	田中 邦明 三上 修	前期において3年次学生は、道南の多様な自然環境に生育・棲息する多様な動植物を調査・観察し、野外調査で得られたデータのコンピュータによる整理・解析方法を学んだ。また、その生命の多様性をもたらした、生体内における巧妙な分子機構についても学んだ。これら前期での学習内容を更に発展させ、自ら応用することを可能にするために、より進んだ実験的手法とデータ解析方法を学ぶ。
	地域環境科学概論Ⅲ(地球環境科学)	雁澤 好博	人間がどのような環境で生き、進化し、現在に至ったのか、その概要を理解すること。また、人類史の視点から現在の環境問題の理解を形成する。
環境緑化論	川本 清美	快適な生活環境を整備するために必要な環境緑化に関する制度、事業手法、技術について学ぶ。	
岩見沢校	自然	山田 亮 尾藤 弥生 坂巻 正美	「自然」をテーマに、音楽・美術・体育というツールを通して体感する。また、文化的な側面から「自然は人間文化と対峙するという見方」や「自然のなかに文化的模範を見つけるべきとする見方」といった自然観について検討するとともに、環境教育的な側面から「エコロジー」・「環境問題」をキーワードに自然についての理解を深める。
	野外環境教育概論	前田 和司 能條 歩 山田 亮 濱谷 弘志	日本において野外教育と環境教育は別々のものとして考えられる傾向がある。しかし、国際的な流れとして、これら二つを野外環境教育として統合していこうという動きが活発になってきた。それは、実際の自然環境の中での教育活動を通して、社会と自然の関係を見直し、それを良好なものにしていく必要性が共通認識となってきたからである。本講義では、こうした国際的傾向に沿いながら自然環境における様々な教育活動を紹介するとともに、その可能性と限界などについて探っていく。
	自然体験活動	山田 亮 濱谷 弘志	夏季のアウトドア活動を体験し、キャンプの基礎的な知識や技術を習得するとともに、自然の中で活動することの楽しみ方や自然とのローインパクトな接し方を学習する。自然体験施設において実際に3泊4日のキャンプ生活を行い、登山や環境教育活動を実践する。
	自然誌の読み解き	能條 歩	北海道の自然の特質を概観するとともに、北海道に見られる動植物・地形・地質などの学習や見学(現地野外講義)を通して、環境の動的平衡、自然現象と自然災害、災害に対する心構え、などについても考える時間を持ち、今の北海道の自然環境がどのようにしてできあがってきたのかを学ぶ。
	アウトドアライフの環境学 環境問題と科学		現代の環境に関する諸問題を科学的に理解する。 野外活動の際に環境問題を考えるための基礎的認識を身につける。
	アウトドアライフの社会学 環境社会学	前田 和司	環境問題の原因、環境問題が発生した地域社会の住民が直面する問題、環境問題を解決する社会的方法、自然環境と親和的な生活のあり方などに関する環境社会学の研究成果を理解してもらう。
	自然体験プログラム実習 Ⅰ・Ⅱ	能條 歩 山田 亮	プロジェクトWILD、Project Learning Tree、ネイチャーゲームなど、自然体験学習や環境教育に関するパッケージプログラムを体験学習を通して、自然を楽しむ学ぶ方法論について学ぶ。

「渡島大沼青年環境サミット2016」の実施 (北海道教育大学函館校 地域教育専攻 田中 邦明 教員)

共 催：北海道教育大学函館校、道南支部高校環境教育研究会
期 間：平成28年10月12日～10月13日
場 所：大沼国際セミナーハウス(七飯町字大沼町)

【実施内容】

学習：ESD「持続可能な未来のための教育」プログラムとして、大沼国際セミナーハウスを会場に、高校生18名、本学学生9名、高校教員10名、合計37名を対象に、バス巡検によって渡島大沼とその周辺地域の優れた自然・環境・産業の特性について学習するとともに、渡島大沼とその流入河川の水質調査を実施し、大沼で発生しつつある環境問題である富栄養化による水質汚濁の現状と想定される原因について学習した。

成果：高校生と大学生が大沼の環境問題の解決方法をロールプレイ手法による討論によって検討し、大沼地域の自然環境と社会の持続的発展を展望する「大沼湖沼環境アピール2016」を策定した。

広報：策定した本サミットの開催と大沼湖沼環境宣言の内容は、北海道新聞2016年10月14日函館版、函館新聞2016年10月14日版によって報道されるとともに、北海道知事および七飯町長あてに提出した。

渡島大沼環境アピール2016

観光グループ

1. 私たちは大沼の食の魅力を伝えるために、函館周辺のJR 駅、空港に、大沼の特産物ブース「みでけ大沼」を開設するよう函館周辺の自治体に提案します。
2. 私たちは大沼の魅力を発信するために、高校生、大学生が運営、企画するラジオ番組「いぐべ大沼」の放送を各ラジオ局に提案します。
3. 私たちは、大沼の環境を保全するために、国立公園のキャンプ場を有料制にすることで、入場券とゴミ袋を配布し、不法投棄されるゴミを減らすとともに、益金の一部を自然環境の保護に役立てることを、大沼公園管理財団に提案します。

農業グループ

1. 私たちは10年後までに大沼で発生する家畜糞尿を有効活用するために、バイオガスプラントを増やし、バイオガスを有効利用する町営住宅等の建設を七飯町に提案します。
2. 私たちは2年後、水質汚染防止のために、畑や牧草地に散布する堆肥の割合を制限する条例の制定を七飯町の農家と七飯町に要求します。
3. 私たちは、できるだけ早く、大沼の水をきれいにするために、現在実施している水草で水質を浄化する人工湿地を湖川以外の河川にも広げようを国と七飯町に提案します。

漁業グループ

1. 私たちは大沼の水質と水産物への影響を理解してもらうため、北海道e水プロジェクト基金に応募して、大沼の水質や漁獲等の最新情報をホームページからダウンロードできる「調べ教材」をつくり、それを渡島管内の学校の教員に配布して授業で取り上げるよう、七飯町教育委員会に提案します。
2. 私たちは、季節ごとの水産物を利用した旬の食材と観光イベントに関連させた多言語のポスターを作成し、羽田、成田、関西空港等に掲示することを七飯町に提案します。

観光グループ代表：

猪股 皇記

農業グループ代表：

中川 銀也

漁業グループ代表：

有櫛 誠人



「シラバスの検索」、 「学部・大学院の紹介」は下記のアドレスを参照ください。

URL : <http://www.hokkyodai.ac.jp/faculty/>

2 平成28年度の附属学校における主な環境教育の実施状況 及び 特色ある環境教育活動・取組

(附属札幌小学校, 附属札幌中学校)

附属学校	テーマ	学年	教科	時間数	大学との連携
附属札幌小学校	ふぞくのもりをたんけんしよう	1	生活科	24	
	あさがおをそだてよう	1	生活科	28	
	ぼくのおさがお	1	道徳	1	
	水の中の生き物を見つげよう	2	生活科	20	
	水ぞくかんをひらこう	2	生活科	10	
	やさいをそだてよう	2	生活科	25	
	こうえんのみはりぼん	2	道徳	1	
	植物を育てよう	3	理科	9	
	植物の育ちと花	3	理科	2	
	ホタルのひっこし	3	道徳	1	
	あいの里緑道	3	総合	30	
	季節と生き物	4	理科	24	一部, 学生による授業
	じいちゃんが教えてくれたこと	4	道徳	1	
	水はどこから	4	総合	16	
	水のゆくえ	5	社会科	10	
	小樽夏の学校での自然散策活動	5	総合	2	大学教員, 学生との連携
	私たちを支える国土の環境	5	社会科	16	
	私たちを支える自動車工業	5	社会科	23	
	かしこい消費者	5	家庭科	5	
	一ふみ十年	5	道徳	1	
	食を極める	5	総合	25	大学教員, 学生との連携
	クリーン大作戦	6	家庭科	6	
	生き物どうしのかかわり	6	理科	9	
	生き物のすみ環境	6	理科	5	一部, 学生による授業
	季節に合わせて快適に暮らそう	6	家庭科	12	
	愛華さんからのメッセージ	1	道徳	1	
	幻の魚は生きている	1	国語	4	
	モアイは語る	2	国語	4	
	環境保全と北海道のエネルギー	2	社会	3	
	地球環境問題	3	社会	2	
	資源エネルギーのかたよる分布	2	社会	2	
	環境保全と日本のエネルギー	2	社会	3	
	環境保全と世界のエネルギー	3	社会	3	研究協力者として
水資源の保全について	3	社会	3		
光と音	1	理科	1		
身のまわりの物質とその性質	1	理科	4		
身のまわりの物質(プラスチックと環境)	1	理科	1		
光合成と呼吸(酸素と二酸化炭素の循環)	1	理科	1		
運動とエネルギー(エネルギー資源と利用)	3	理科	4		
化学変化と原子・分子	2	理科	4		
天気とその変化	2	理科	2		
生命の連続性	3	理科	5		
運動エネルギー	3	理科	3		
自然と人間	3	理科	5		
科学技術と人間	3	理科	2		
化学変化とイオン	3	理科	6		
地球と宇宙	3	理科	7		
科学技術と人間	3	理科	15		
技術の進歩と生活・地球環境との関わり	1	技術・家庭	3		
エネルギー変換に関する技術	2	技術・家庭	4		
身近な消費生活と環境	2	技術・家庭	6		
住生活と自立(環境に配慮した生活)	1	技術・家庭	3		
衣生活と自立(環境に配慮した生活)	2	技術・家庭	3		
What is the most important thing to you? ~環境問題	3	英語	7		
The 5Rs to Save The Earth	3	英語	7		
「附属中に緑を増やそう」(学校宿泊学習)	1	特別活動	3		
環境保全をテーマにした調査	1	総合的な学習の時間	2		
環境保全をテーマにした調査	2	総合的な学習の時間	2		

(附属札幌小学校ふじのめ学級, 附属札幌中学校ふじのめ学級)

附属学校	テーマ	学年	教科	時間数	大学との連携
附属札幌小学校 ふじのめ学級	植物の世界	3~6	総合的な学習の時間	4	大学教員, 学生と連携
	虫の世界	3~6	総合的な学習の時間	4	大学教員, 学生と連携
	川の世界	3~6	総合的な学習の時間	4	大学教員, 学生と連携
	ミクロの世界	3~6	総合的な学習の時間	4	大学教員, 学生と連携
	畑の活動(食べたい野菜を育てよう)	3~6	総合的な学習の時間	35	
	畑の活動(野菜を育てよう)	1~2	生活単元学習	35	
	風を感じて!	1~6	生活科	4	
	水のひみつ	1~6	生活科	4	
	みつげよう!春夏秋冬	1~6	生活科	10	
	附属札幌中学校 ふじのめ学級	農耕作業	1~3	作業学習	35
現場実習		3	作業学習	35	
職場見学		1~3	生活単元学習	6	

■ 5年生「収穫の秋」(平成28年10月5日実施 附属札幌小学校)

構内の水田で育てた黄金色に輝く稲を5年生が収穫しました。普段、使うことのない鎌をもって活動に取り組む中で、1本も無駄にしないようにと、慎重に運ぶ子どもたちの姿がありました。



■ 4年生「南極教室」(平成29年1月31日実施 附属札幌小学校)

南極の越冬隊員がその活動や南極の自然を紹介する「南極教室」に親子で参加。越冬隊員の服装での登場したり、風速60m/sの風を体験したりする担任の姿、南極の氷が溶けるときの音や音を聞く簡単な実験など、笑いあり、学びありの貴重な時間となりました。



■ ペットボトルキャップ回収, リングプル回収, 牛乳パックリサイクル, 地域の清掃活動, クリーンプロジェクト(校舎中庭に花壇を造ろう)

実施期間: 通年(清掃活動は学級活動の1時間) 附属札幌中学校

- ・生徒会厚生委員会の活動として、生徒が自主的に、「ペットボトルキャップ回収活動」及び「リングプル回収活動」に取り組んでいる。箱を設置し、自宅から持ってきたものを回収している。集まったものは、寄附している。
- ・リサイクル委員会では、給食の牛乳パックの回収を行い、それをティッシュペーパーに交換し、各学級に再配布している。
- ・地域の清掃活動については、1年生の特別活動のボランティア活動の一環として実施している。

(平成28年度の附属学校における主な環境教育の実施状況 及び 特色ある環境教育活動・取組)

(附属旭川小学校, 附属旭川中学校)

附属学校	テーマ	学年	教科	時間数	大学との連携	
附属旭川小学校	世界遺産 白神山地からの提言	5	国語科	15		
	はたらく人とわたしたちの暮らし	3	社会科	18		
	健康な暮らしとまちづくり	4	社会科	23		
	生活環境を守る人々	5	社会科	14		
	生き物をさがそう	3	理科	5		
	チョウを育てよう	3	理科	5		
	植物を育てよう	3	理科	8		
	虫を調べよう	3	理科	7		
	風やゴムのはたらき	3	理科	9		
	電気の通り道	3	理科	9		
	ごん虫調べ	3	理科	3		
	季節と生き物	4	理科	7		
	夏と生き物	4	理科	6		
	秋と生き物	4	理科	7		
	冬と生き物	4	理科	6		
	生き物の1年	4	理科	3		
	流れる水のはたらき	5	理科	13		
	生き物とかんきょう	6	理科	6		
	ものの燃え方と空気	6	理科	11		
	植物の体	6	理科	9		
	土地のつくりと変化	6	理科	12		
	電気の利用	6	理科	12		
	はるとなかよし	1	生活科	7		
	なつとなかよし	1	生活科	9		
	あきとなかよし	1	生活科	10		
	ふゆとなかよし	1	生活科	14		
	大きく育てばくとわたしの〇〇〇	1	生活科	22		
	つくってあそぼう	1	生活科	15		
	みんなでそだてよう	2	生活科	19		
	夏を楽しもう	2	生活科	10		
	秋を楽しもう	2	生活科	16		
	秋を楽しもう	2	生活科	16		
	冬を楽しもう	2	生活科	11		
	※図画工作科においては、作品を作る際の材料として廃品の利用や学習後の処理等について指導します。					
	附属旭川中学校	昔のおそびで友達をふやそう	2	生活科	15	
		じょうずに使おう物とお金	5	家庭科	3	
		寒い季節を快適に	5	家庭科	6	
		はじめてみようクッキング	5	家庭科	10	
		暑い季節を快適に	5	家庭科	6	
		クリーン大作戦	6	家庭科	4	
		共に生きる生活	6	家庭科	9	
		くふうしようおいしい食事	6	家庭科	11	
		目指せ!! エコロジー名人	4	総合的な学習の時間	25	
ペットボトルキャップとリンクブル回収によるリサイクル運動		全学年	生徒会活動	随時		
環境地図づくり		1	社会(地理)	6	大学からの依頼	
資源エネルギーと産業		2	社会(地理)	2		
環境問題への取組		3	社会(公民)	1		
地球規模の環境問題		3	社会(公民)	1		
これからの資源・エネルギー		3	社会(公民)	1		
環境の負荷が小さい発電方法		3	理科	3		
身近な環境の調整		3	理科	2		
環境と人間の活動		3	理科	2		
環境と保全		3	理科	1		
科学技術の利用と自然環境の保全		3	理科	3		
環境や資源を考えた生活		3	技術・家庭科(家庭分野)	10		
生活や産業の中で活用される技術の評価	1	技術・家庭科(技術分野)	2			
目的や制約条件に応じた物づくり	1	技術・家庭科(技術分野)	16			
目的に応じた生物育成	2	技術・家庭科(技術分野)	7			
Water Problems	2	英語	12			
健康と環境	2	保健体育	8			
親子ボランティア	全学年	行事	随時			

(附属釧路小学校, 附属釧路中学校)

附属学校	テーマ	学年	教科	時間数
附属釧路小学校	春がいっぱい	2	生活科	4
	秋がいっぱい	2	生活科	4
	虫を調べよう	3	理科	4
	健康な暮らしとまちづくり～水はどこから	4	社会科	4
	流れる水のはたらき	5	理科	2
	環境を守る人々	5	社会科	2
	生き物と環境	6	理科	4
	エソシカ肉を使った学校給食	全学年	特別活動(食育)	
附属釧路中学校	花いっぱい運動(沿道花壇の土おこし作業)	全学年	学校行事(勤労奉仕活動)	2h
	市民一斉清掃運動	全学年	学校行事(勤労奉仕活動)	1h
	学校行事(勤労奉仕活動)	全学年	生徒会活動	随時

■ 幼小交流「イモ植え」(平成28年6月3日実施 附属旭川小学校, 附属旭川幼稚園)

幼稚園と小学校の共有体験の1つである「イモ植え」を行いました。今年度はじゃがいも以外にも、玉ねぎとニンジンも植えました。野菜を収穫したら、一緒にカレーライスを作って食べようという計画です。園児にイモ植えを楽しんでもらえるように声をかけたり、トイレや水飲み場に連れて行ってあげたりするなど、年下の子へ親しみをもって接している児童の姿が見られました。



■ 全校一斉校外清掃 (平成28年4月18日実施 附属釧路小学校)

きれいな環境を保つために、全校一斉校外清掃を行いました。校舎の周りをきれいにし、みんなが気持ちよく学校生活を送ることができるよう、1年生から6年生まで、それぞれ担当の区域をきれいにしました。



■ 2年生・阿寒湖畔での自然体験活動 (平成28年5月～6月実施 附属釧路小学校)

阿寒湖畔をフィールドとして、(一財)前田一步園財団との自然環境教育共同プロジェクトを行っています。今年度最初の活動は2年生の活動で、2年2組が5月26日、2年1組が6月7日に行いました。生活科との関連から、阿寒湖畔の森で植樹体験をしたり、自然散策をしたりしました。前田一步園財団の山本課長の御指導のもと、普段は滅多に入ることのできない阿寒湖畔の森の中で、自然にたくさん触れながら、学びを深めることができました。



(平成28年度の附属学校における主な環境教育の実施状況 及び 特色ある環境教育活動・取組)

(附属函館幼稚園, 附属函館小学校, 附属函館中学校, 附属特別支援学校)

附属学校	テーマ	学年	教科	時間数	大学との連携	
附属函館幼稚園	おおきなあれ!	3~5歳児			卒論協力「食育」	
	お花をそだてよう	1	生活科	9		
	秋とともだち	1	生活科	8		
	やさいをそだてよう	2	生活科	8		
	ハウスセンカをそだてよう	3	理科	10		
	こんちゅうをそだてよう	3	理科	8		
	季節と生き物	4	理科	3		
	葉がしげるころ	4	理科	4		
	葉が色づくころ	4	理科	4		
	発芽と成長	5	理科	8		
	花から実へ	5	理科	4		
	ものの燃え方と空気(大気)	6	理科	11		
	水溶液の性質(水質)	6	理科	12		
	電気の利用(エネルギー)	6	理科	10		
	健康なくらしとまちづくり(ゴミ, 水)	4	社会科	21		
附属函館小学校	環境を守る人々	5	社会科	11		
	季節に合わせ快適にくらそう	6	家庭科	8		
	はだしの広場で楽しもう・本の読みかせ	1~2				
	附属函館中学校	生物育成に関する技術	1	技術	23	
		エネルギー変換に関する技術	2	技術	20	
		地球環境問題	3	社会	2	
		資源エネルギーのかたよる分布	2	社会	2	
		光と音	1	理科	1	
		身のまわりの物質とその性質	1	理科	4	
		物質と状態変化	1	理科	1	
		大地の変化	1	理科	1	
		電流	2	理科	4	
		動物の生活と種類	2	理科	1	
		化学変化と原子・分子	2	理科	4	
		天気とその変化	2	理科	2	
生命の連続性		3	理科	5		
運動エネルギー		3	理科	3		
化学変化とイオン		3	理科	6		
地球と宇宙	3	理科	7			
科学技術と人間	3	理科	15			
ガイアの知性	2	国語	5			
附属特別支援学校	牛乳パックをリサイクルしてはがきを作ろう	中学部	作業学習	140		
	アルミ缶をリサイクルしよう	中学部	作業学習	141		
	アルミ缶をリサイクルしよう	高等部	作業学習	105		
	地域のごみ拾いをして分別しよう	中学部	作業学習	12		

附属学校園についての詳細は下記のアドレスを参照ください。

URL : <http://www.hokkyodai.ac.jp/attached/>

■ 「おおきなあれ おいしくなあれ」 (北海道教育大学附属函館幼稚園)

本園では全クラスが野菜の栽培と生き物の飼育をしています。
 年長組は菜園でジャガイモやニンジン育て、収穫し、宿泊保育でカレーに調理します。年中組・年少組はプランターにイチゴやミニトマトやキュウリ等を植え、水やり当番等のお世話をしっかりしています。
 次々と実をつけているキュウリは、お弁当の時間にみんなで板ずりして食べると、苦手な子でも、おかわりをして食べ、家庭でも「幼稚園の野菜はおいしい」と話しているようです。
 生き物は、おたまじゃくし、クワガタムシ、スズムシ等を飼育しています。お世話をしながら虫に触れ、足の感触などを楽しんでいます。



■ 4年生宿泊学習 (平成28年12月15日~16日実施 北海道教育大学附属函館小学校)

12月15日から16日にかけて、4年生がネイバル森(茅部郡森町字駒ヶ岳657番地15)に宿泊学習に行きました。
 館内ウォークラリー、キンボールといったアクティビティ、陶芸、森のフレーム作りといった制作活動、そして楽しい食事。
 普段の学校とは違う、異なる環境の中で過ごしなが、友達と力を合わせたり、分かり合えたりしました。
 4年生にとって一泊二日のこの学習は、高学年に向かうよい足がかりになりました。



■ 2016年度 夏季及び冬季の節電対策について

北海道教育大学 環境保全推進本部

2016年度の電力需給対策などを議論する政府の「電力需要に関する検討会合」において、節電の目安として具体的な数値目安を伴う節電要請はありませんが、省エネルギー対策の取り組み推進を依頼されております。

このことを受け本学では、環境保全推進本部において検討した結果、2015年度に引き続き、夏季10%以上・冬季8%以上の節電目標を設定し、教育研究及び業務等に支障がない範囲で、節電対策を実施することとなりました。

節電量に応じた照明器具の消灯台数やパソコンの省エネ設定、暖房便座等の電気機器の使用制限など、節電量を積み上げた「節電ロードマップ(案)」を作成し、本学で消費電力量の約4割強をしめる照明器具については、照度計にて各室の明るさを計測するなどして、必要な明るさを確保したうえで、間引き(消灯)するなど行いました。

パソコンについては、ディスプレイの輝度設定による消費電力の状況を計測するなどして、必要最低限の明るさとなるよう配慮しました。また、節電対策が確実に実施されるよう、定期に節電点検を実施しました。

また、2012年度より各キャンパス受電設備にデマンド監視装置を設置し、電力の「見える化」を図り、情報公開の一端として、節電状況について大学の取組を発信し、また、使用状況が把握できるようホームページに各校の電力使用状況を掲載してきました。

その結果、大学全体では 夏季は **5.7%***、冬季は **4.0%***の節電となり、いずれも目標値には及ばないものの、節電対策の効果が表れている結果となりました。

※各月平均値

■ 2016年度節電対策内容

- 節電対象** 全学(附属学校、学生寄宿舎等含む全ての施設)
- 節電期間** 夏季 平成28年 7月 1日(金) ~ 平成28年 9月30日(金)
冬季 平成28年 12月 1日(木) ~ 平成29年 3月31日(金)
- 節電目標** 平成22年度同月の最大需要電力(kw)を基準
夏季：**10%以上**、冬季：**8%以上**、その他の期間：**5%以上**

節電対策

- 意識啓発**
節電ポスターの掲示
電力使用状況の公表
- 節電目標に対応した節電ロードマップ(案)の作成及び実行**
- 節電チェックリストを利用した節電点検の実施**
- 空調・暖房設備** 空調機の温度設定を見直す
クールビズ・ウォームビズを実施し、室温設定を見直す
- 照明設備** 必要照度を確保して照明器具の間引き
可能な限りLED電球への交換
使用していないエリアの消灯の徹底
昼休みの室内消灯の徹底
- 空調、照明設備以外の設備** 暖房便座を節電モードに設定
洗面所ハンドドライヤーの使用中止
パソコン(ディスプレイ含む)の省エネモードへの設定及び未使用時の電源オフ
エレベータの使用制限
上1階、下2階の移動はエレベータの使用を原則禁止し、出来るだけ階段を利用
- 全学で夏季一斉休業の実施** 平成28年8月12日~16日



■ 本学ホームページに各キャンパス電力使用量を掲載



■ 2016年度 その他の環境保全活動

・キャンパスクリーンの実施

環境保全活動の一環として、各キャンパスにおいて教職員・学生により構内の清掃や講義室等の清掃等を行いました。

札幌校では春季の平成28年6月10日及び秋季の平成28年10月14日に行われ、学生及び教職員が協力し、約1時間ほどかけて、構内のゴミ拾いを行いました。

旭川校では春季の平成28年6月3日及び秋季の平成28年10月14日に行われ、学生と教職員が春に約800名、秋に約850名ほど参加して専攻ごとに担当区域を分担し、構内及び隣接する公道、男子寮周辺のゴミを拾いと分別作業を、約1時間かけて実施しました。また、7月初旬から10月下旬にかけて花壇整備、正門から教職員玄関にかけて花苗プランター設置を行いました。

釧路校では平成28年6月3日に学生を中心に258名が集まり、教室内の清掃や大学周辺のゴミ拾いを行いました。



■ 紙パックほか資源回収活動
(北海道教育大学旭川校 生活協同組合旭川支部)

本活動は、北海道教育大学生生活協同組合旭川支部による資源回収であり平成19年度から開始し、現在も継続中の活動である。

①紙パック、②インク・トナーカートリッジ、③わりばし、④PETボトルキャップ、⑤ボタン電池の5品目を対象に北海道教育大学旭川校舎内に回収箱を設置し、学生等に回収協力の周知を行っている。

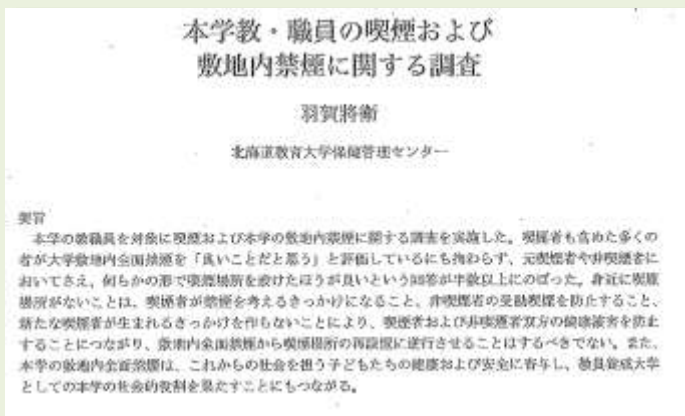
わりばし回収数(膳)		
	回収数	累計
2008年	4862	4862
2009年	19943	24805
2010年	21538	46343
2011年	21672	68015
2012年	20799	88814
2013年	17980	106794
2014年	14684	121478
2015年	11993	133471
2016年1-6月	5183	138654
7月	923	139577
8月	344	139921
10月	822	140743

PETボトルキャップ回収実績		
	回収数	累計
2008年	2062	2062
2009年	6226	8288
2010年	12575	20863
2011年	13522	34385
2012年	13100	47395
2013年(含14年1月)	12777	60172
2014年(除1月)	9851	70023
2015年	10462	80485
2016年1-6月	4216	84701
7月	1061	85762
8月	1108	86870
9月	530	87400
10月	1005	88405

■ 本学教・職員の喫煙及び敷地内禁煙に関する調査の実施について
(北海道教育大学保健管理センター)

平成28年2月に、安全衛生管理委員会の名前で本学の敷地内全面禁煙に関する意識調査を実施し、その結果を論文として発表、同年8月、北方産業衛生 54号 に掲載された。

本学の敷地内全面禁煙は、これからの社会を担う子どもたちの健康および安全に寄与し、教員養成大学としての本学の社会的役割を果たすことにつながる。



■ 北海道教育大学札幌校及び旭川校の学生が「稲作体験塾」に参加しました

協力：JAグループ北海道
期間：平成28年6月1日(札幌校)、平成28年5月29日(旭川校)
場所：「くるるの杜(もり)」(北広島市大曲377-1)、「秦真一圃場」(旭川市永山町)
実施者：北海道教育大学札幌校、旭川校

【実施内容】

稲作体験塾は授業の一環として実施しており、札幌校の活創造教育専攻学生の「教育フィールド研究Ⅳ」として開設されているもので生活創造教育専攻2年生24人が参加しました。

また、旭川校では「教育フィールド研究Ⅰ」の授業として生活・技術教育専攻等の学生34人が参加しました。



■ 北海道教育大学岩見沢校の学生が「青の世界で待ち合わせ」プロジェクトを実施しました

協力：岩見沢市建設部建設管理課、北海道教育庁空知教育局、空知中央バス株式会社
期間：平成28年8月3日～5日
場所：市立病院前バス待合所(岩見沢市内)
実施者：北海道教育大学岩見沢校-美術文化専攻-書画工芸コース3年生

【実施内容】

岩見沢校の美術文化専攻書画・工芸コース学生15名が「地域プロジェクトⅢ」という授業の一環として、取り組みました。地域を盛り上げるために「日常生活で何気なく使っている場所を、普段とは全く異なった空間に装飾する」という、岩見沢市内にある市立病院前バス待合所を使って癒しの空間(海に行った感覚)を作り上げました。



地域貢献

本学には、様々な専門分野の教員がおり、その研究活動は多岐にわたり、各種審議会委員や講演会の講師、地域の環境活動等を積極的にを行っています。これら教員の研究活動から、環境保全及び環境教育に関わる教員の地域貢献を次に示します。

1 各種審議会委員

キャンパス名	教員名	職名	名称	委嘱機関	期間(任期)
札幌校	嶋崎 倂司	教授	岩見沢市公害対策審議会委員	岩見沢市	27.10.7～29.9.30
	今 尚之	准教授	北海道環境パートナーシップオフィス事業評価委員会委員	環境省北海道地方環境事務所	27.7.1～30.3.31
	鈴木 明彦	教授	石狩市文化財保護審議会委員	石狩市	26.5.1～28.4.30
			石狩市文化財保護審議会委員	石狩市	28.5.1～30.4.30
	高橋 庸哉	教授	札幌らしい特色ある学校教育推進検討プロジェクト委員	札幌市教育委員会	28.5.13～29.3.31
	並川 寛司	教授	河川水辺の国勢調査アドバイザー	北海道開発局札幌開発建設部	28.5.23～29.3.31
	百瀬 響	教授	石狩市文化財保護審議会委員	石狩市	26.5.1～28.4.30
			石狩市文化財保護審議会委員	石狩市	28.5.1～30.4.30
	森田 みゆき	教授	さっぽろ環境賞選考委員会委員	札幌市	28.8.24～29.2.28
			北海道環境審議会委員	北海道	26.11.26～28.11.25
札幌市環境教育基本方針推進委員会委員			札幌市	28.4.1～30.3.31	
旭川校	安藤 秀俊	教授	森林学習プログラムの開発会議	富良野市教育委員会	28.4.1～29.3.31
			旭川市緑の審議会委員	旭川市	28.8.1～30.7.31
	角 一典	教授	旭川市ごみ減量等推進優良事業所認定審査会委員	旭川市	28.11.16
	川邊 淳子	教授	北海道スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員	北海道教育委員会	27.5.15～32.3.31
	佐々木 謙一	准教授	旭川市環境審議会委員	旭川市	27.2.27～29.2.26
			旭川市廃棄物減量等推進審議会委員	旭川市	27.6.1～29.5.31
	芝木 邦也	教授	旭川市緑の審議会委員	旭川市	28.8.1～30.7.31
	藤川 聡	准教授	旭川市都市計画審議会委員	旭川市	26.5.1～28.4.30 28.5.1～30.4.30
	八重樫 良二	教授	旭川市景観審議会委員	旭川市	26.9.24～28.9.23 28.9.24～30.9.23
			旭川市景観アドバイザー	旭川市	26.10.30～28.10.29
釧路校	平岡 俊一	准教授	釧路市地球温暖化対策地域協議会委員	釧路市	26.9.3～28.9.2 28.12.17～30.12.16
			再生可能エネルギー等導入推進基金事業評価委員会委員	北海道	26.9.10～28.9.9
			北海道環境審議会委員	北海道	26.11.27～28.11.26
			釧路市廃棄物減量等推進審議会委員	釧路市	27.11.1～29.10.31
			釧路市環境審議会委員	釧路市	27.12.8～29.12.7
			釧路湿原自然再生協議会委員	釧路総合振興局	28.1.1～28.11.30
			浜中町環境審議会委員	浜中町	28.4.1～30.3.31
	森 健一郎	准教授	北海道エネルギー教育会議運営委員会委員	(公財)日本科学技術振興財団	28.10.1～29.3.31

キャンパス名	教員名	職名	名称	委嘱機関	期間(任期)
函館校	浅木 洋祐	准教授	函館市廃棄物処理施設整備基本計画策定業務プロポーザル選定委員会委員	函館市	28.5.1～28.6.30
			函館市地球温暖化対策推進協議会委員	函館市	28.5.11～29.3.31
			函館市廃棄物処理施設整備基本計画検討委員会委員	函館市	28.7.1～29.7.31
	根本 直樹	教授	函館市都市景観審議会委員	函館市	27.6.27～29.6.26
	三上 修	准教授	函館市環境審議会委員	函館市	27.12.1～29.11.30
			函館市緑化審議会委員	函館市	29.2.2～31.2.1
岩見沢校	能條 歩	教授	北海道環境教育等推進協議会委員	北海道	27.7.16～29.7.15
			岩見沢市公害対策審議会委員	岩見沢市	27.10.1～29.9.30

2 講演会の講師

キャンパス名	教員名	職名	名称	委嘱機関	期間(任期)
旭川校	和田 恵治	教授	ユースオブワールド2016 講師 「地球的観点から考える自然との共生」	国立大青雪少年交流の家	28.8.11
釧路校	野村 卓	准教授	くしろ市民大学 講師(講座内容「私たちの食事から排出されるCO2はどれくらい?」)	くしろ市民大学	28.7.26
			伊原 禎雄	教授	くしろ市民大学 講師(講座内容「ミンクに脅かされる釧路湿原」)
	平岡 俊一	准教授	地域リーダー育成セミナー 講師	山梨県エネルギー局	28.10.14
			シンポジウム「ヨーロッパと日本の取組から持続可能な地域づくりを考える」 講師	(特非)北海道グリーンファンド	28.11.21
			低炭素・持続可能な京都づくり研修会 講師	京都府環境部	29.1.27
			自然エネルギー学校・うちこ 講師	内子町	29.2.17
函館校	田中 邦明	教授	環境学習会 外部講師	北海道七飯高等学校	28.11.10, 29.1.24
	三上 修	准教授	函館市温暖化防止市民講座 講師	函館市	28.11.12
岩見沢校	能條 歩	教授	環境関連事業「大学生連携事業」 講師・指導補助者	札幌市西区市民部	28.9.22～28.10.10
			自然体験教育 講師	札幌市教育委員会	28.10.14
			環境教育・環境保全活動実践講座 講師	北海道環境生活部	29.1.10～29.1.11

3 他大学の非常勤講師

キャンパス名	教員名	職名	名称	委嘱機関	期間(任期)
札幌校	佐々木 胤則	教授	非常勤講師(生活環境論)	札幌保健医療大学	28.4.1～28.9.30
旭川校	今村 彰生	准教授	環境科学	旭川医科大学	28.4.6～28.9.30
			自然の探求	京都橘大学	28.4.1～29.9.20
			自然学2	京都造形芸術大学	28.4.1～29.2.28
			生態学	京都造形芸術大学	28.4.1～29.3.31
釧路校	伊原 禎雄	教授	客員研究員(研究課題:両生類に対する放射線等の影響評価)	(独)国立環境研究所	28.4.1～29.3.31
	大森 享	教授	環境教育実践論研究	東京学芸大学	28.10.17～29.3.17
岩見沢校	能條 歩	教授	保育内容(環境と健康)	藤女子大学	28.4.11～28.9.21

4 地域の環境活動及び啓発活動

キャンパス名	教員名	職名	名称	委嘱機関	期間(任期)
札幌校	並川 寛司	教授	[自然環境保全基礎調査植生調査]北海道ブロック調査会議への参画	環境省自然環境局生物多様性センター	28.10.3～29.3.31
			北海道建設部専門員登録	北海道	28.4.26～29.3.31
釧路校	伊原 禎雄	教授	阿寒国立公園及び知床国立公園における再生可能エネルギーの効率的導入促進のための自然環境等イベントリ整備推進委託業務に係る情報収集に関する助言	(株)建設環境研究所	28.12.20～29.2.28
岩見沢校	能條 歩	教授	公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会指導者養成委員会委員	公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会	28.5.20～29.3.10

環境省「環境報告書ガイドライン2012」との対照表

項目	掲載ページ
基本的事項	
1. 報告にあたっての基本的要件	
(1) 対象組織の範囲・対象期間	巻頭
(2) 対象範囲の捕捉率と対象期間の差異	巻頭
(3) 報告方針	8
(4) 公表媒体の方針等	35
2. 経営責任者の緒言	1
3. 環境報告の概要	
(1) 環境配慮経営等の概要	8
(2) K P Iの時系列一覧	-
(3) 個別の環境課題に関する対応総括	8
4. マテリアルバランス	10~13
「環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況」を表す情報・指標	
1. 環境配慮の取組方針、ビジョン及び事業戦略等	
(1) 環境配慮の取組方針	8
(2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	9
2. 組織体制及びガバナンスの状況	
(1) 環境配慮経営の組織体制等	8
(2) 環境リスクマネジメント体制	8
(3) 環境に関する規制等の遵守状況	9,14,15
3. ステークホルダーへの対応の状況	
(1) ステークホルダーへの対応	16~27
(2) 環境に関する社会貢献活動等	16~27,29~33
4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	
(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	-
(2) グリーン購入・調達	9
(3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等	-
(4) 環境関連の新技術・研究開発	16~21
(5) 環境に配慮した輸送	-
(6) 環境に配慮した資源・不動産開発/投資等	6,7
(7) 環境に配慮した廃棄物処理/リサイクル	15
「事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況」を表す情報・指標	
1. 資源・エネルギーの投入状況	
(1) 総エネルギー投入量及びその低減対策	10~13
(2) 総物質投入量及びその低減対策	10~13
(3) 水資源投入量及びその低減対策	10~13
2. 資源等の循環的利用の状況(事業エリア内)	13
3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況	
(1) 総製品生産量又は総商品販売量等	-
(2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	10~13
(3) 総排水量及びその低減対策	10~13
(4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	14,15
(5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	14,15
(6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	14,15
(7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	14
4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	16~27
「環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況」を表す情報・指標	
1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況	
(1) 事業者における経済的側面の状況	-
(2) 社会における経済的側面の状況	-
2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況	28,29
その他の記載事項等	
1. 後発事象等	-
2. 環境情報の第三者審査等	-

ホームページによる情報公開

北海道教育大学では、環境報告書をホームページ上で参照できるようにしています。
 (下記アドレスから「大学紹介」→「刊行物・広報誌」→「環境報告書」を選択してください。)
 2011年度報告書より、環境報告書の公表媒体は環境を配慮し、冊子による公表・配布は控え、ホームページのみの公表としました。

本学ホームページ: URL: <http://www.hokkyodai.ac.jp/>



環境報告書

- [環境報告書-2015年-](#) (5.07 MB)
- [環境報告書-2014年-](#) (4.51 MB)
- [環境報告書-2013年-](#) (3.02 MB)
- [環境報告書-2012年-](#) (3.09 MB)
- [環境報告書-2011年-](#) (13.24 MB)
- [環境報告書-2010年-](#) (5.98 MB)
- [環境報告書-2009年-](#) (2.02 MB)
- [環境報告書-2008年-](#) (2.23 MB)
- [環境報告書-2007年-](#) (1.30 MB)
- [環境報告書-2006年-](#) (1.04 MB)
- [環境報告書-2005年-](#) (503.56 KB)

